

新刊案内

『天使たちの課外活動』【6】 茅田 砂胡/著 中央公論新社 T/カス
『転生王女は今日も旗(フラグ)を叩き折る』【4】 ビス/著 フロンティアワークス T/ヒス
『昔話法廷』【Season3】 「昔話法廷」制作班/編 金の星社 T/ムカ
『ナイスキャッチ!』【3】 横沢 彰/作 新日本出版社 T/ヨア
『生まれたときからせつない動物図鑑』 フルック バーガー/著 ダイヤモンド社 T480/ハフ
『人とどうぶつの血液型』 近江 俊徳/編著 緑書房 T491/オト
『さいとう市立さいとう高校野球部』【2】 あさの あつこ/著 講談社 TB/Aア
『魔法科高校の劣等生』【26】 佐島 勤/著 KADOKAWA TB/スカ
『ソート アート・オンラインオムニバス「インゲル・オンライン」』【8】 時雨沢 恵一/著 KADOKAWA TB/シケ
『ケーキ王子の名推理(スペシャリテ)』【3】 七月 隆文/著 新潮社 TB/十タ
『小説若おかみは小学生!劇場版』 令女 ヒロ子/原作文 講談社 TB/レヒ
『ソート アート・オンラインオムニバス「クローバース・リグレット」』【3】 川原 礫/原案 監修 KADOKAWA TB/ワソ



ティーンズのココロ通信 山口市立中央図書館 178号

平成30年 10月 1日 発行 〒753-0075 山口市中国町7-7

TEL: 083-901-1040 FAX: 083-901-1144

Eメール: info@lib-yama.jp



涼しく感じる日が増え、本格的に秋を感じる季節になりましたね。日も短くなり、空には早い時間から美しい星や月が輝いています。そこで今月は【月・星・宇宙】をテーマにさまざまな本を紹介しています。読み終わった後に、ふっと夜空を見上げてみたくなる本がたくさんあります。読書の秋に、月や星、宇宙の本を読んでみませんか？



●『宇宙人っているの?』

長沼 毅/作 吉田 尚令/絵 金の星社 E/ヨヒ

宇宙ってどうなっているの?誰か住んでいるの?一度は考えたことがあるかもしれませんが。そんな疑問にたしかかな答えは返ってはこないけれど、宇宙にあるたくさんの星の環境から、どんな生き物がいる可能性があるのか想像してみる本です。地球以外の天体にも水がある、あるいは海がある。つまり地球と似た環境の惑星があるといわれているのだから、生き物が住んでいても不思議ではないはず。どんな姿でどんな生活をしているのかな。この本を読んだら宇宙人の存在を信じたくなるはず!?

(Y. I)

●『モマの火星探検記』

毛利 衛/著 講談社 T/モマ

2033年、人類が火星に行けるようになった時代。6人の宇宙飛行士は火星へと向かいます。宇宙飛行士である著者自身が2度宇宙に行った経験を元に書いた作品のため、リアルとファンタジーが絶妙な匙加減で、こちらの想像力が掻き立てられます。今からそう遠くない未来に起こっても不思議ではない物語。宇宙へのロマンを感じたり、人間はどうして地球に生まれたのか—そんな壮大な問いについて考えたり、受け取る側によって様々なことを感じる事ができる作品です。

(N. O)

●『キャロラインの星』

三田 誠広/著 河出書房新社 T/ミマ

1781年ウィリアムとキャロラインという兄弟が天王星を発見しました。ウィリアムは音楽一家に生まれ音楽家としての成功を収めると同時に幼い頃から大好きだった天体観測に更に磨きをかけるため、天文学や数学を独学で学び、更には自身で長い年月をかけて望遠鏡を製作し、1781年に未知の惑星、天王星を発見しました。お嫁にも行かず、大好きだった歌の勉強も中断し、兄の夢のために青春のすべてを捧げてくれた妹キャロラインとの兄弟愛に感動します。最後にタイトルの意味が分かります。

(Y. I)

●『宇宙を撮りたい、風船で。世界一小さい僕の宇宙開発』

岩谷 圭介/著 キノブックス T746/イケ

「宇宙」と聞くと私たちは手の届かない、遠くかなたの場所を想像します。しかし、「宇宙」は案外身近な存在なのかも…?この本を読んでいくとそんな考えが浮かびます。「ふうせん宇宙撮影」を始めたきっかけから実際に綺麗な写真が撮れるようになるまでの試行錯誤などの過程だけでなく、夢や挑戦してみることの大切さについて感じたことが書かれています。宇宙にあまり興味がない方も新しい視点から将来について考えてみるきっかけになるかもしれません。

(N. O)

●『賢治の見た星空』

藤井 旭/著 作品社 T442/ファ

宮沢賢治の作品には、代表作「銀河鉄道の夜」をはじめ、様々な話の中に星座や星空の描写が出てきます。彼自身も天文にとっても詳しく、さらにそこへ幻想的な文章表現が加わり、どの作品もきらめく儂い星々が目の前に広がるようです。この本は、美しい天体写真と解説で、そんな宮沢賢治の美しい世界へと導いてくれます。なんと「宮沢賢治」という星も実在するのだとか…。星空の美しい秋の夜長のお供にいかがでしょうか。

(M. S)

●『アミ小さな宇宙人』

エンリケ バリオス/著 石原 彰二/訳 徳間書店 TF/ハエ

少年ペドゥリートと、アミと名乗る宇宙人との交流が描かれた物語です。アミの案内で宇宙を旅しながら訪れた星での会話で「ものごとを問題としてとらえるのではなくて、乗り越えるための自分じしんへの挑戦として解釈しているんだよ。」というアミの言葉がとても印象的です。他にも素敵な言葉がたくさん、学ぶべきことの多い良い宇宙人のお話。表紙や挿絵は、先日亡くなったさくらももこさんで、話もイラストも優しい気持ちになる1冊です。

(M. S)